

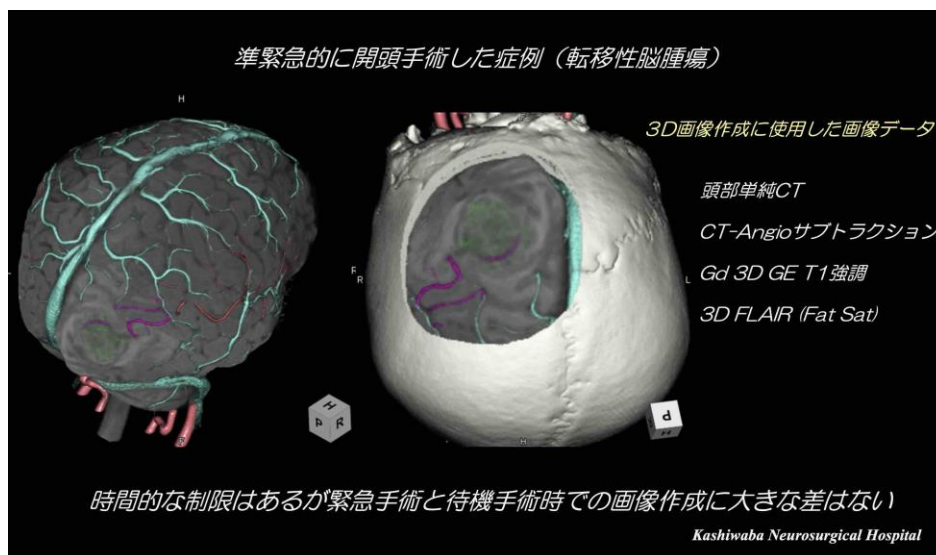
第 29 回 日本脳神経外科救急学会 参加報告

柏葉脳神経外科病院 先端医療研究センター 平野 透

第 29 回 日本脳神経外科救急学会が 2024 年 2 月 1 日から 2 日間、東京駅近隣で開催されました。今回この学会に初めて参加致しましたので報告致します。この学会は脳神経外科医療のなかで救急対応を要する疾患群を対象とした学会であり、くも膜下出血や脳出血などの脳卒中、外傷、更に緊急手術を要する様々な疾患に対する治療などについてディスカッションを行う学会であり、数ある脳外科の学会の中でもかなりコアなテーマを扱う会であると感じました。今回の学会では大会長の意向で診療放射線技師にもこの学会に参画してほしいと日本救急撮影技師認定機構に連絡があり、認定資格を持つ技師を中心に「ペナングラの画像検査特徴と治療方針」、「脳神経外科診療を支援する画像技術」の 2 つの医師・技師シンポジウムを開催することが出来ました。私は脳神経外科診療を支援する画像技術のセッションで柏葉脳神経外科での手術支援画像作成について報告してきました。当院では急性期主幹動脈閉塞患者の血栓回収療法、くも膜下出血患者への血管内や直立手術、更に急性増悪した脳腫瘍患者への開頭手術等の急性期の疾患に対しての画像支援の現状や脳外科医とのコミュニケーションの取り方などについてもお話し致しました。他のシンポジストの方も限りある時間や資源の中で診断や治療に有用な画像支援について報告されていました。時間的な制限はありますが、基本皆さん画像支援のやり方を急性期と待機手術で区別していないように感じました。救急医療に関する学会のため、通常診療についてのセッション以外に小児虐待、脳死判定や移植、テロを含む特殊災害など普段聴講するチャンスがないセッションもあり、医師や看護師更に救命士など多種職の方が学会に参加されており、様々な情報を得ることができる学会と思われ、脳神経領域または救急医療に興味のある方にはお勧めの学会の 1 つとなりました。

学会期間中には救急撮影認定技師を取得した聴講者を中心に、診療放射線技師懇親会があり、まだまだ人数は少ないですが脳神経領域が得意なメンバーでの懇親の場はとても楽しい時間でした。脳外科医の画

像診断や手術支援画像作成への期待は大きいと感じており、日本脳神経外科救急学会もそれを感じると共に、今各施設で求められている画像などを考える良いチャンスだと思いました。



学会で使用したスライドの1枚



診療放射線技師だけで開催した懇親会での記念撮影